ふ事あり、是陰陽の氣出動にして、全く物有てふるはすにあらず、左傳、文公九年九月地震とあり、正義曰、陽伏して出る事あたはず、陰迫て昇事あたはず、爰におひて動くとあり、孔氏曰、陽氣陰のためにせばめられて昇事を得ず、故に地震すといへり、又史記にも、地震は陽伏して出ず、陰迫て昇(ノボラ)ず、この故に地震ありと記せり、周本紀白陽甫說ナリ 是等は皆地震の本說也、陰陽家抔の、いつの地震は何にたゝり、幾日の震動は病に祟なんど云事は、皆迂怪の說にして、用るにたらず、地震何ぞ變とせんや、抑大地は本氣渣滓(カス)こり聚て形をなし、元氣施轉の中に亘れり、天は地の外を包、地は其中間にあり、地中は水火の二氣万物を發生する也、水火は所謂一陰一陽也、天地に對していふ時は陰也、故に小陽大陰にせばめられて登事を得ず、地を徽搏して震出る也、是を地震といふなり、此(ハゲ)しきは山を崩し海を塡、人家を壓す事あり、又地の震ふ事、他所より分て繁き所あり、是は其地平陸にして廣々としたる所程、折々地震し、又震もつよき物也、狹所は山谷岩石にさへられて、陽の出る事緩き故也、廣き所は漳なきに依て、陽氣の嚴敷出る故也、中華にても、閩廣の地は常に動く、廣ク平ナル所也 浙より北は地震希也といへり、浙ヨリ北ハ皆山ツヾキナリ 鹿島の要石といふ事、兒女の諺にして云にたらず、彼輩のいへらく、大成鯰地底にありて、日本國中五畿七道載ずと云所なし、彼尾或は鰭にても動す所忽地震す、故に鹿島の明神、要石をもつて押給ふといへり、今案ずるに、何ぞ其鯰日本をのみ載て、唐土を載ざるや、唐土にも地震あり、一笑するに堪たり、彼日本を載たる鯰の圖を見るに、大成鯰のごとき物、國々を載たり、愚案を回すに、是恐らくは蜻蛉の圖を見あやまりて、鯰に書なしたる物成べし、日本紀に、神武天皇卽位三十一年四月、諸國に行幸して、大日本の國形蜻蛉の臀せるがごとしと宣へり、是に依て我國を蜻蛉洲ともいへり、日本の圖を見るに、頗鯰の形に似たり、 是等の圖を見誤て鯰といふか、又地震の神を鹿島大明神といふ事有べからず、日本紀神代卷に、高皇產靈尊の命をうけて、武